

2022年度後半からの重点項目

モザンビーク共和国北部カーボデルガド州
テロ紛争の地から支援と経済の輪を創造する



モザンビークのいのちをつなぐ会

今日を生きるから未来へ生きるへ。

日本の知恵を活かしモザンビークのQOLを向上。

July. 2022

代表理事・モザンビーク事務局長 榎本 恵 Megumi Enomoto

- ◆ 1973年、福岡県北九州市小倉生まれ。
ペンバ・ナティティ地区在住。
- ◆ 大学卒業後、広告代理店に勤務。
- ◆ 2000年、起業・事業拡大支援を
行う Planning MAY を開業。

主に環境・農業系企業、通販・教育系企業のビジネスサポートを手がける。

- ◆ 2012年、日系バイオ燃料企業のモザンビーク進出をきっかけに、
初めてアフリカの地を踏む。半年間、新規事業開発業務を行う。
- ◆ これまで後進国の開発地区で目の当たりにした、「取り残された貧困層の
人々の問題」、「先進国の開発論理と後進国貧困層のニーズのジレンマ」を
少しでも解消すべく

2013年4月『NGOモザンビークのいのちをつなぐ会』を設立。

2018年12月、一般社団法人化。



寺子屋統括ディレクター・ナジャ プロフィール

- ◆1987年、カーボデルガド州ムエダ村生まれ。
4歳の時に内戦の戦火を逃れ、ムエダからペンバへ移住。
モザンビークとタンザニアで名を馳せたミュージシャン・叔父と同居し
18歳の時に自分のバンドを結成。
- ◆叔父に倣い、音楽を通じた社会貢献活動続ける。
アフリカ圏内の大統領などの要人の会合やチャリティーGALAでの
演奏機会が増え、国民的ミュージシャンに。
- ◆2013年モザンビークのいのちをつなぐ会設立時から活動に参加。
- ◆2015年から日本や欧州でも公演を行う。
- ◆2019年ペンバ青年共同組合設立。





モザンビークのいのちをつなぐ会の役割と信念

最貧困国の最貧困地で、現地住民と一体となった直接活動を続けています。

- 2020年度の人間開発指数は188カ国中180位。モザンビーク共和国カーボデルガド州はかつてより「忘れられた州」と呼ばれており社会投資が行われてこなかったが天然ガス開発により一挙に注目を浴びるも、政策改善は行われず、貧困率が国内でも最も低い州のままである。この地で当会は、2013年よりスラム地区に住みながら現地有志とともに地道な直接活動を続けている。

グローバルキャピタルの相対としての「不可視化され、支援もされない土地」の代表例ともいえる、モザンビーク北部で活動を行う草の根NGOは当会のみ。

- 先進国による開発により発生/問題化するネガティブな事態の伏線回収として、国連や日本を含む開発国から多額の支援金がモザンビークに投入されているが、残念ながら、スラムの住民たちのもとに国際支援が届くことはほとんどないのが現状である。
- グローバル資本主義の「支援・開発」に着目した、マネタイズ化が拡大しており、間接的な支援は実際に現地に届かない場合もあり、現地主体となった「直接支援」が重要である。

《NOW》イスラム過激派の攻撃が終息せず。貧困の深刻化と食糧難。しかし国際支援の手は届かず。

- 日本も参入する天然ガス開発を背景に2019年からイスラム過激派のテロが激化。4000名以上が殺され、88万人が避難民となり、90万人が食糧難に。当会事務所のある州都ペンバに、20万人以上の避難民が流入。
- コロナ禍も相まって、失業率がさらに増加。食糧難も一層深刻化しているが、国際支援の手はほんの少しか届いてない。

モザンビークのいのちをつなぐ会は、「**小さいけれど、力持ち！**」をスローガンに、スラム地区の住民と力をあわせて、地道かつ確実な活動を続けています。

スラム地区に住む約100名のメンバーとチカラを合わせて、社会支援のジレンマをおこさない、現地目線の実効力ある**直接活動**を遂行しています。

モザンビークの概要

- 面積: 79.9万平方キロメートル (日本の約2.1倍)
- 人口: 約3,126万人 (日本の約1/4)、人口増加率2.9%
- 首都: マプト (最南部に位置、人口約127万人)
- 民族: マクワ、マコンデ、ロムウェなど43部族
- 言語: ポルトガル語と各民族の言語 (北部はマクワ語、マコンデ語等)
- 宗教: キリスト教、イスラム教、原始宗教
- 略歴: 1498年 ヴァスコ・ダ・ガマがモザンビーク島に到達
1752年 ポルトガルによりモザンビーク総督府設置
1964年～1974年 (停戦) モザンビーク独立戦争
1975年 ポルトガルから独立
1977年～1992年 (停戦) モザンビーク内戦

450年以上
ポルトガルの
支配を
受けていた

2017年～現在、モザンビーク北部でイスラム過激派のテロ攻撃続発

- ◆ 平均寿命: 61.3歳 (2020年) ◆ 出生率: 4.78人 (2019年)
- ◆ 5歳未満の乳幼児死亡率: 18% (カーボデルガド州2008年)
- ◆ 5歳未満の栄養失調率: 56% (カーボデルガド州2008年)
- ◆ HIV感染率: 11.5% (2020年)
- ◆ 人間開発指数: 189カ国中、180位 (UNDP2020年)

モザンビークのいのちをつなぐ会の活動エリア



【カーボデルガド州・ペンバ】

- 事務所 (2013年～)
- ペンバ寺子屋 (2014年～)
- 平和の家 (2021年～)

【ナンブラ州・ナンブラ】

- ナンブラ寺子屋 (2021年～)



【事務所・ペンバ寺子屋・平和の家】

モザンビーク共和国

最北部に位置する

カーボデルガド州 **ペンバ**

【ナンブラ寺子屋】

ペンバから車で5, 6時間に

位置するナンブラ州 **ナンブラ**

テロの激化
が世界的な
懸念事項

首都は、最南端に
位置する **マプト**

モザンビーク北部は貧困率が国内で最も高く、貧困、保健問題の他、開発による自然の荒廃も急速に進んでいる。



日本も参入する巨大天然ガス開発を背景に、イスラム過激派の攻撃が激化。

4000名以上が死亡、避難民88万人以上。

当会活動地
カーボデルガド州



ニュース

イスラム過激派から逃れた13万人超、モザンビーク港湾都市に殺到

2020年12月14日 16:22 発信地: ベンガ/モザンビーク (モザンビーク, アフリカ)



イスラム過激派
テロ攻撃の拡大

死者・避難民の
増加、エリア拡散

過激派のリクルー
トが活発化

貧困から過激派に
参加する者が増加

テロ攻撃の悲報が続くなか、子どもの誘拐や過激派に参加する者も増加。子供青年たちの
いのちを守り、安寧を導くため、平和創造活動が必要に。

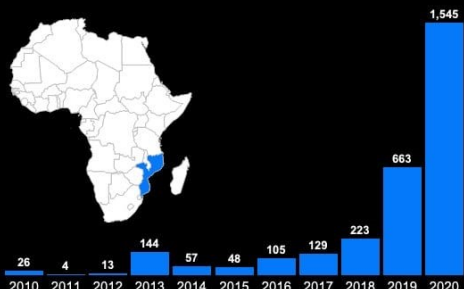
当会活動地モザンビーク共和国
カーボデルガド州の2020年の
死者数は2019年の2倍。

モザンビーク全体の死者の
97%をカーボデルガド州が
占めている。

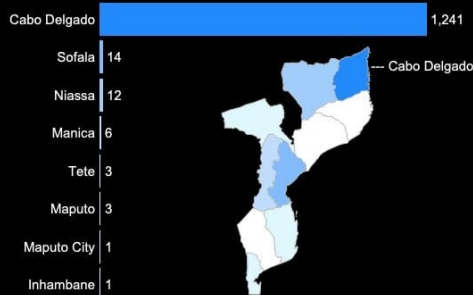
Mozambique: reported fatalities

Annual (2010 - 2020*)

Monthly (January 2010 - October 2020)

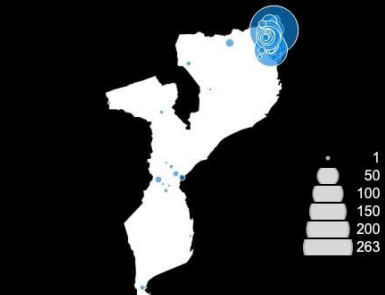


Province (01 January 2020 - 31 October 2020)

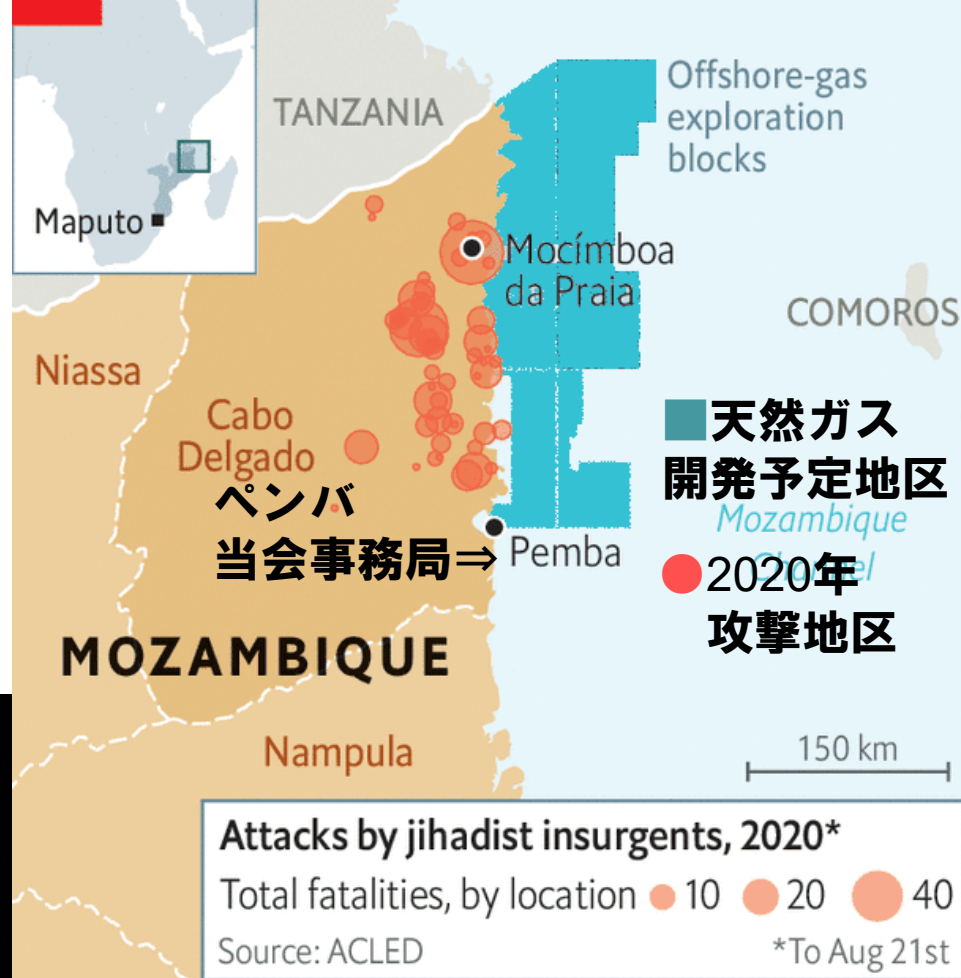


Data source: ACLED | * 01 January 2020 - 31 October 2020

Magnitude by location (01 January 2020 - 31 October 2020)



Visual: J. Luengo-Cabrera



The Economist

日本も参入する天然ガスメガ
プロジェクトがイスラム過激派の
ターゲットと一要素となり、
テロ攻撃が拡大激化している。

当会活動地カーボデルガド州の根本的問題

最貧困国の中でも貧困度の高いエリア。草の根NGOは当会のみ。

教育

長期に渡るポルトガル支配の愚民化政策により教育レベルが非常に低い。



公衆衛生

貧困地区では不衛生な環境により乳幼児死亡率は18%。5.5人に1名が5歳未満で死亡。

今

テロ紛争

日本も参入する資源開発を背景に搾取構造への不満が高まり、紛争が激化。

公衆衛生活動、食料支援もさらに必要に！

テロにより避難民88万人発生。食料難民は90万人。
ペンバのスラム地区でも自主的に避難民を受け入れ、
一つの家で30人から50人で暮らす家もあり。政府避難施設では暴行横行。

コレラの流行も起きている。

スラムの子どもたちの**15%が1日1食以下**で生きている。

衛生状況の悪化 + 食糧難

改善策⇒避難民の保護 (安全かつ安心な環境)
公衆衛生、食料配布etc

ペンバ寺子屋には避難民の子どもを含め、約350名が通所しています。

脆弱
な
環境

避難民流入

コレラの流行

食料難

主な活動①教育活動

スラムの学び舎・寺子屋の運営

ペンバ寺子屋
ナンプラ寺子屋

1 貧困を
なくそう



4 質の高い教育を
みんなに

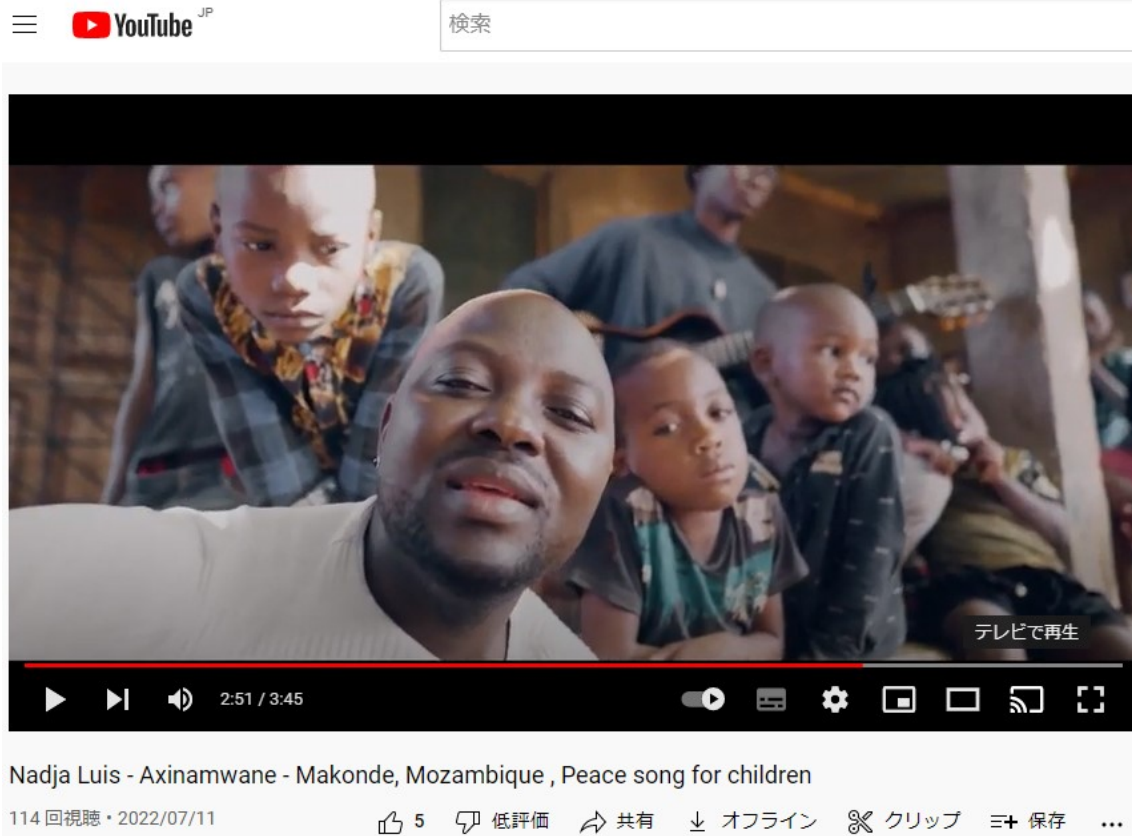


目的：道徳教育を基本に、
知的好奇心を高めていく。
内容：読み書き、算数、英語、工作
音楽などの学習
対象：2歳から40歳（メインは子ども）
通所人数：約350名

目標

寺子屋から進学、起業する子供・青年を輩出する。

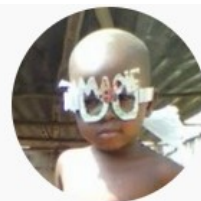
寺子屋ディレクターのナジャが寺子屋キッズと作った 平和の歌のPVが完成！寺子屋で撮影しています。



<https://youtu.be/yyh3JQpjPvw>

寺子屋キッズの様子や、公演の様子は
Youtubeチャンネル

Natite Mozambique にアップ。



Natite Mozambique

チャンネル登録者数 822人・194 本の動画

●
真っ白い空、平和のイメージ。
私は子どもと手をつないで輪になる。
平和の集会。希望を与え、幸せを与え、
日々を与え、子どもが成長する。
平和、調和、喜び。
戦争がない世界。
紛争がない世界。
差別がない世界。
表現の自由を得る。自由意志を得る。
遊ぶ、歩く、働く、勉強する。
子どもは明日の果実。光輝くことができる。
子どもは明日の果実。発展することができる。
子どもは明日の果実。
世界を変えることができる。
大人たちは私たちの庭に咲く、
果実の花を大切に世話しよう。
真っ白い空、平和のイメージ。

●
作詞作曲：ナジャ

レコーディング・ミックス：オズバルド

撮影・編集：DJブランカ

主な活動②公衆衛生活動

公衆衛生活動・美化活動

3 すべての人に
健康と福祉を



目的：衛生習慣を身につける。
内容：公衆衛生活動／歯磨き、手洗い
爪切り、皿洗い等
美化活動／家庭と町の美化

ペンバ環境美化活動



目標

細菌感染症等による疾病死亡率の低減。

主な活動③水環境活動

水環境活動 ～井戸・トイレの設置～



村の水場は川底から滲み出る水。
すべての生活用水に使用。



6 安全な水とトイレ
を世界中に



1 貧困を
なくそう



村で調達できる部品を用いて、ロープ
ポンプ式井戸を村で製造・設置。

目標

安全な水へのアクセス率向上。衛生環境整備。



寺子屋と平和の家に深井戸設置

井戸から外壁まで配管し、路地から水を配水している。

主な活動④食べられる緑化

食べられる緑化（モリンガ、果樹）

目的：環境問題と高い貧困率、
栄養失調率の改善
内容：モリンガ、果樹の播種育成

2 飢餓を
ゼロに



目標

栄養失調率および自然環境の改善。



主な活動⑤緊急支援活動

緊急支援活動～サイクロン・テロ紛争～

浄水

衣料

食料

2 飢餓を
ゼロに



13 気候変動に
具体的な対策を



10 人や国の不平等
をなくそう



16 平和と公正を
すべての人に



目標

支援が行き届かない人たちの生命を守る。

2022年後半からの
重点活動

食

住

守

重点項目① **食べる** <子ども配食> <バナナ育成>

**1日1食以下で生きる子どもたちが15%。
ペンバ寺子屋での毎日配食を継続する！**

ペンバ寺子屋での朝、晩の配食活動

目的

(食料) 1日1食児童が15%いるため、
栄養失調を予防する。

内容

朝: 毎朝パン 200-300個
夕: 豆シチュー等 欠食児童 50名

対象

朝: おなかを減らせて寺子屋に来る
子どもたち (150-300人)
夕: 寺子屋近所の欠食児童 50人
※ 治安が悪く暗くなって外で出ることを避けるため
夕食は暗くなる前に帰宅できる距離に住む欠食児童。

補足

月に1, 2回、お昼ごはんをみんなで
食べる催事イベントも実施。



寺子屋調理隊長の
アリサーヤ



エネルギー価の高いバナナを栽培して、食糧難と栄養失調改善を助ける。

NEW 食べられる緑化・バナナの栽培

目的 食糧難と栄養失調の改善

内容 300軒の家に毎年バナナを植えて、増やしながらナティティ地区3000軒のバナナの木が必要な家でバナナを収穫できるようにする。

対象 ペンバ・ナティティ地区 3000軒
※ペンバで最も人口が密集したスラム地区で、当会の事務所や寺子屋、Casa de Paz (平和の家)があるエリア。

補足 これまで5年間、食べられる緑化してモリンガの栽培移植を実施した。次のフェーズとして、住民の要望が多い、バナナを用いた食べられる緑化を行う。



重点項目② **住まう**＜避難民の家・Casa de Paz (平和の家)＞

ペンバに流入しているテロ紛争避難民が 安全に住める施設の整備を行う。

ナティティ地区 エスパンサオン地区 **Casa de Paz の建築・整備**

目的

テロ紛争避難民が安全に過ごせる
ようにする。

内容

ナティティCasa de Paz:
⇒冷蔵庫や水タンク等の資材整備、
トイレ増設、市場機能を持たせる
※すでに避難民居住

エスパンサオンCasa de Paz:
⇒①外壁設置 ②電気水整備
③建屋建設 ※これから建設

対象

ナティティCasa de Paz
1ルーム7部屋:5~7人×7部屋 35人~
年間居住想定:150名

エスパンサオンCasa de Paz
⇒2ルーム5部屋:10-15人x5部屋 50人~
年間居住想定:200名



- ・ペンバ空港⇒事務所:車で10分
- ・事務所⇒ペンバ寺子屋:徒歩8分
- ・事務所⇒ナティティCasa de Paz:徒歩8分
- ・事務所⇒エスパンサオンCasa de Paz:車で20分

ナティティ Casa de Paz

- 2021年建築
- 7部屋、避難民入居済み



2022年には手掘り深井戸45mを掘削し路地から水が汲めるようにしました。

実施すべき
活動

- 1: 冷蔵庫や水タンク等の整備
- 2: トイレ増設
- 3: 市場機能を付与するための設備
(パン焼きオーブン、製粉機)



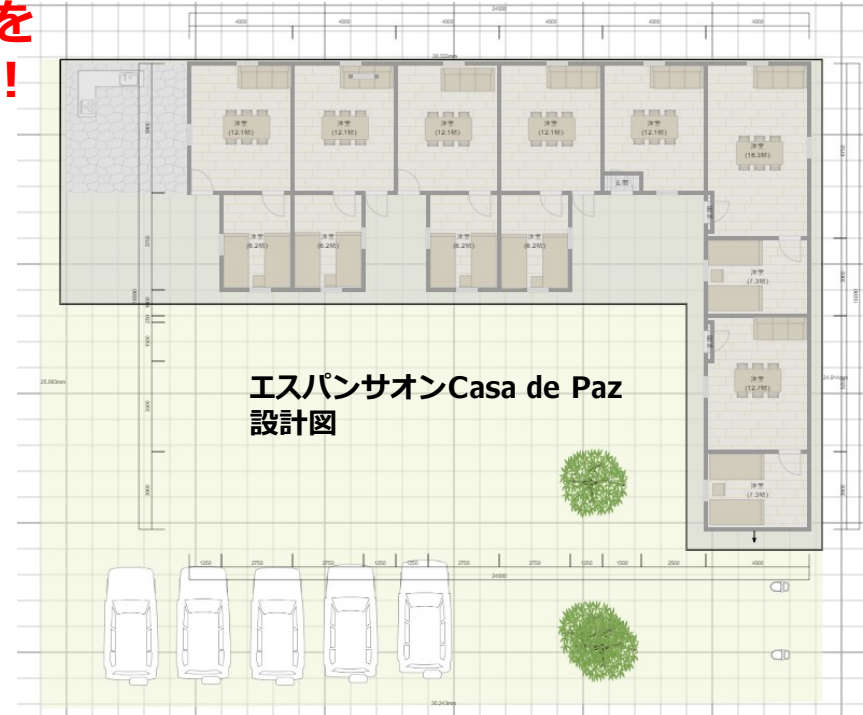
エспанサオン Casa de Paz

- 2020年外壁途中まで作業
- 今後、建築を実施
- 25mx30mの土地

テロ避難民からの要望で、Casa de Paz 第2弾を
エспанサオン地区に建築することを決定！！！！



エспанサオンCasa de Paz 建屋の建築イメージ



実施すべき
活動

- 1: 外壁設置
- 2: 電気、井戸の設置
- 3: 建屋(2ルーム×7世帯)



エスパンサオン 共同水場の整備

- 管理小屋あり
- 水道を敷設
- プラスチックタンク設置



* 事務所からエスパンサオン共同水場まで、車で30分 * エスパンサオンCasa de Pazから共同水場まで車で12分

エスパンサオンの貧困エリアも、多くの避難民が親類や知り合いの家に避難しているが、水道を敷設していない家がほとんどで、安全な水の入手が困難なため、**共同水場を整備することで、安全な水へのアクセスを可能にする！**

実施すべき
活動

- 1: 水道敷設
- 2: プラスチックタンクの設置
- 3: 地下タンクの設置

重点項目③ **守る** <公衆衛生活動・小さな商いプロジェクト>

コレラとコロナの感染ゼロを継続する。

子ども公衆衛生活動



目的

ウイルス、細菌等感染症による
疾病死亡率の低減

内容

手洗い、うがい、歯磨き、爪切り
食器洗い、疾病基礎知識

対象

ペンバ寺子屋キッズ 約350名

学びの機会を守る・奨学用品



制服や筆記用具がないため学校に
通えない子どもたちのために
制服や筆記用具など奨学用品を配布。
避難民の子どもの通所も増加しており
2023年も必須となる予定。

【暮らしを守る】失業率7割超。 支援と経済の循環を創る、新たな取り組みを開始！

スラムの住民が一人ひとり自立を皆で支えていき、スラムの生活と支援の支え合いを可能とする

小さな商いプロジェクト

現在の課題

貧困の深刻化

地域内での
経済格差

子ども達の進学
費用の捻出

食糧難
食費の捻出

グローバル資本主義・官僚資本主義の進行による貧困格差拡大・個人主義の浸透による弊害に冒されないよう

コミュニティの相互扶助力の強化を重要視した、地域のQOL向上のための活動を展開。

・国際機関等がトラックを押さえており、現地住民が人や物資の輸送に使える車両が激減
■コミュニティで使える車両を整備

運送

トラック、バン等
車両の整備

・食糧難民への食料購入費に充当する事業の始動

■パン屋、商店（バラック）ヘアサロンや食堂を事業化

パン屋、商店 サロン、食堂

店舗事業の始動

・各人が収入を得る機会を提供
■Casa de Paz でフリーマーケットを開設

ミニ市場

フリーマーケットの
開設

・貧困から夢を早くから諦める風潮の変革

■進学や就職、開業を目指す人たちの支援

自立支援

進学、就職、起業
のための経済支援、
教育支援、ファンド



モザンビークのいのちをつなぐ会は、
小さいけれど、チカラ持ち！な団体として
貧困地区一人ひとりの命を守り、
一人ひとりの可能性を育み
一人ひとりの存在価値を高めていきます！